

短
信

「ふれあい技能祭」の 開催

ポリテクセンター埼玉

埼玉職業能力開発促進センターでは、平成12年11月19日(日)「ふれあい技能祭」を開催し、多くの来所者で賑わいました。

この行事は、日ごろふれあうことのない地域住民の方に、ポリテクセンターの業務内容を知ってもらうことや、各種工作用機器を見たり触ったりして、技能に対する関心を高めてもらうことを目的として、10年ほど前から職業能力開発促進月間である11月に開催しているものです。

始めたころは技能系職種が主体で年代層はまちまちでしたが、現在では子どもの人気は情報系が中心になっています。一方、年配者の関心は平成6年度から訓練を開始した介護サービス科に集中していま

す。

今回準備した一日体験テーマは、機械系がマシニングセンターを使ったキーホルダー製作、テクニカルメタルワーク科が銅板レリーフ製作、電気・電子系が電子工作(光るオルゴール独楽)、情報系がマウスパッドとシールの作成、ビジネスワーク科がクリスマスカード作成、介護サービス科が介護実体験などです。

銅板レリーフ製作はレベルが高く大人しか参加できませんが、その他のコースは幼稚園児から大人までの参加者があり、完成までの参加者同士あるいは親子の協力風景は見えて微笑ましいものでした。

前回からは一部訓練生も積極的に参加して、ポスター作成から当日の案内までこなし、特に今回は昼食までつくる熱の入れようでした。

今回は、当センターと道路を隔てて反対側の駒場サッカー場で、J1昇格をかけた浦和レッズの最終戦にぶつかったにもかかわらず、各コースとも予定した材料はすべて使いきるほどの盛況でした。

このように毎年、計画を公表後、一部のコースについては、すぐに定員一杯になることから、次回からは受入態勢をどうするか検討して、なお一層参加者に喜んでもらえる行事にしようと、今から職員一同知恵を絞っているところです。



職業能力開発ステーション サポートシステムについて

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター
企画調整部 職業訓練教材整備室

1. 開設の目的

従来から能力開発研究センター独自の職業訓練指導員向けホームページ開設の要望があり、情報公開の一環として、当センターが蓄積してきた成果物等を利用できる環境を提供することについて検討がなされてきた。今般、平成7年度より当センターの事業となっている「高度職業訓練教材開発支援システム」の専用回線契約の更新に合わせ、回線速度の高速化（1.5Mbps）を図るとともに「高度職業訓練教材開発支援システム」を新たに「教材作成支援情報」としてコンテンツ化し、さらに付加情報を加味したホームページとして公開することとした。

平成12年10月2日URL公開

<http://www.tetras.uitec.ehdo.go.jp/>

2. 主な情報発信項目

平成12年12月現在では以下のようなコンテンツを公開している。

教材作成支援情報...自作教材に関する情報を共有化する目的で雇用・能力開発機構職員が自ら作成した教材をデータベース化し、データシートや指導案等、自作教材を使用するための周辺情報とともに情報提供している。教材自体のダウンロードについては会員登録した方のみ可能とし、新規会員登録については当ホームページ上からも簡単にできるようにした。

また、会員の範囲も都道府県立職業能力開発施設職員まで拡大された。

教科書使用状況検索...全国の都道府県立職業能力開発施設で使用されている市販教科書について



平成12年度アンケート調査した結果を学科別および、出版社別に検索できるシステムを教科書選定時の一助にとの目的で提供している。

マルチメディア教材作成にかかわる著作権...マルチメディアを使った教材を作成する場合、情報のデジタル化とネットワーク化が知的財産権、なかでも著作権にどのような影響を与えているかについて、基礎編と応用編に分けて、Q & A形式で具体的に解説している。

3. 今後のコンテンツ公開予定

本年度中に以下のコンテンツを追加公開予定としている。

「技能と技術」「職業能力開発報文誌」検索...当センターが編集する上記2誌のバックナンバーをPDFおよびテキストファイル化し、再利用可能なデータとしてダウンロードできる機能を提供する。

研究報告書・教材情報資料等検索...当センターの研究成果物の紹介とダウンロードできる機能の提供。

企業内職業能力開発ポジショニングシステム...企業内の教育訓練担当者等が能力開発に関する取り組み状況をWeb上から自己分析するツール。

今後は、教材作成支援情報会員へのアンケートを実施するなどユーザの求める情報をいち早くコンテンツに反映し、指導員向けのWebとしてより一層充実させていく予定である。

短信

「技能と技術」誌 表紙デザインの取り組み

ポリテクカレッジ岐阜 産業デザイン科

後藤 直文

毎年、授業の一環として制作に取り組んできましたが、2000年も最優秀賞の作品が本校から選ばれたことを非常にうれしく思っております。全国に多くの産業デザイン科のあった頃から受賞する機会も多く、指導する側の励みにもなっておりましたし、また学生にも大きな自信につながるということで、当コンクールは有意義なものとなっております。

また学生も以前にも増して女子学生が増えてきていることから、対就職もグラフィック志向が強くなってきており、表紙のデザインは1年次の中頃の課題としては、非常に適したものでありました。

もちろん当科の目指す本流はプロダクトデザインであることは、今でも変わりありませんが、もの造りの原点はジャンルを超えてあまり変わりはないという観点から、構成して組み立てていくという造形



本来の目的を追求していくことにより、バランス感覚やリズムのおもしろさ、空間の広がり等、さまざまな造形のイメージが開花されていくことに主眼をおいて取り組ませています。

制作当初は、まごつきながら始める者も多いのですが、イメージが固まっていくプロセスを学生とともに共感していくことが、指導する側の大きな喜びでもあります。

昨今は何でもパソコン主導になりがちなか、手造りの意義と大切さを再認識させることを主眼に、最終的にはパソコンで造ることになるものでも、まず手造りを原則として、課題制作に取り組ませております。当コンクールの出品作品も後藤、高木両教員が学生へのバックアップをしながら手造りで完成させました。

最後に、出品してくれた学生の今後の活躍を切に願うとともに、審査に当たられた方々に感謝の意を表して結びのことばといたします。

最優秀賞受賞者

ポリテクカレッジ岐阜 産業デザイン科1年生 川瀬 明日香



自己紹介 私は、高等学校で3年間デザインを学び、ポリテクカレッジに入学しました。今では、たくさんの作品制作ができてとても楽しい毎日です。また、この作品は私が今まで学んできた知識と技術、そして自分の感性を生かし、私の好きな方法で制作させていただきました。

作品のコメント デザインについては“宇宙と光”というテーマを設定し、スクリーントーンを使って制作いたしました。意外と身近にある宇宙、そして無限に広がる果てしない空間を表現したつもりです。その空間の光を円と矩形によって動きのある作品に仕上げました。